



九 企 第 1 3 2 号

平成20年10月10日

国土交通省道路局長 殿

九 度 山 町 長



今後の道路行政についての意見・提言について（回答）

平成20年9月19日付国道企第37号にて依頼のあった標記の件につきまして、別紙のとおり回答いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

- ・山間部地域など地域の実情に沿った道路構造令の改正。
実情にあった特例事項の追記など
- ・着工している高規格道路などの早期完成による事業効果の一日も早い発現。
- ・ややもすれば目的化している道路整備について、その目的の明確化と波及効果を最大限に上げるため、規制緩和など一般的な行政の取り組みが必要。
- ・地方の活性化に道路は必要であるが、道路を地域振興のために十分活用できるような状況になっていない。高速道路などの整備の進捗に反比例し、従前の幹線沿いの観光施設などが廃れている例は多い。地域が利用しやすく、地域の顔となるような大規模なSA・PAが一体的に整備されることが望ましい。
- ・地震や風水害が多発している現在、生活道としては災害時のことも考え、複数の路線の整備が必要。(特に河川沿いなど山間部において)

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

様式 ②

和歌山県九度山町

○現状

- ・ 道路構造令は山間部の道路整備においてはネックとなり過大投資を余儀なくされている路線もある。
- ・ 生活道路と通過交通が主である国道が兼用で使用されている。(谷沿いの国道1本に頼っている。)
- ・ 街なかの道路整備の遅れと人口減少。
- ・ 老朽化する橋梁と長寿命化の為の予算。

○課題

- ・ 特に山間部については緩和の特例を設けて欲しい。
- ・ 地形的にも制約が大きいですが、現道の改修とともに、災害時の避難路として併行する路線の新設が必要である。
- ・ 適当な補助金制度がない。
- ・ 今後見込まれる各種公共施設、特に道路にあっては橋梁の補強・補修の予算の確保が困難である。

- ・ 災害に強い町づくりとしての道路行政

災害時に孤立する集落のない道路整備が必要であるが、本町の道路の幹線は国道・県道に頼っている地域が多い。

災害の多発する昨今の状況下、災害に強い道路の整備のための予算確保が望まれる。

- ・ 道路整備と地域の賑わいや新しい産業の創出

道路整備の進むことによる波及効果として、インターチェンジ周辺やSA・PAが地域の観光・産業の核となり、周辺の

市町の産業がより潤うような施設となるよう整備されることが望まれる。

- ・ 高規格道路の整備の進捗による関西国際空港との関係

空港への時間短縮による効果は、伊都・橋本地方にも大きく影響し、現在の当地方のストックの活用が期待される。

新たなビジネスチャンスでもある。よって進行中の整備路線には早期完成の為の予算措置がとられるようにお願いしたい。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

和歌山県九度山町

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	高規格道路の部分開通 SA等の整備	・ 農業など地場産業の活性化 ・ 地域の産業の活性化 ・ 新しい産業が生まれるビジネスチャンス ・ 関空への利便性の向上 移動の快適性	
・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	国県道など幹線道路の整備	・ 災害時の孤立集落を無くし、安全安心なまちづくりが期待できる	